

『大上地区社協』ニュース



■ No.46 ■平成24年8月発行 ■大上地区社会福祉協議会 ■発行責任者 市ノ澤 寅夫

今年度から“ふれあいの集い”は、区ごとに開催

大上地区社協が主催して平成18年度から行われてきた、大上地域全体の要援護登録者を対象とした“大上ふれあいの集い”は、人員の増加と会場の関係から開催が困難となりました。そこで、今年度からは区ごとに“ふれあいの集い”を開催し、充実を図ることになりました。

この区ごとの集いは、要援護者や75歳以上の高齢者と地区社協の会員がお互いに顔見知りになりましょうという主旨で、区ごとに趣向を凝らして行われるものです。

これまで、年2回までの開催に対して補助金が出ていますが、今年度からは補助金が増額されています。対象となる皆さんの積極的な参加を期待しています。

今年度に入り、第1回目の集いが開催されたのは、次の通りです。

6月2日 3・4区 = 大上自治会館
6月17日 6区 = 大上自治会館
6月24日 8区 = 大上会館
7月8日 2区 = 深谷大上ふれあいの家
7月29日 9区 = 大上公園

なお、1区=11月、5区=9月、7区=12月に予定。そして10区、11区は現在検討中です。



なごやかな3・4区のふれあいの集い

北の台小の3年生が“くす玉作り”に挑戦

北の台小学校の3年生が、総合的学習で地域を知ろう・地域の人と語る学習の一環として昨年に引き続いて本年も6月28日（木）に、大上地区の皆さんの指導を受けて“くす玉作り”に挑戦した。

このくす玉作りは、学校の要請を受けて大上地区社協の岩月理事が中心となって実現したもので、当日は3年生全員の70名の2クラスが、午前10時40分から3校時と4校時を使って大上地区のくす玉作りサークルの中鉢さんを中心としたメンバー4人と、地区社協会員などの8人を含めた12人が指導役となり、2クラスの12班に1人ずつが担当して児童と共に折紙と糊を使って“くす玉作り”を楽しんだ。

時間内に完成できない班が多かったが、児童の皆さんは一緒に“楽しかった”と目を輝かせていた。一方、くす玉作りに参加した12人は、児童と昼食を共にして親睦を深めた後、校長室にて内藤校長からねぎらいの挨拶をいただいて、皆さん満足の様子でした。



児童と共に昼食をとる皆さん



【1組】



【2組】

熱心にくす玉を作る3年生